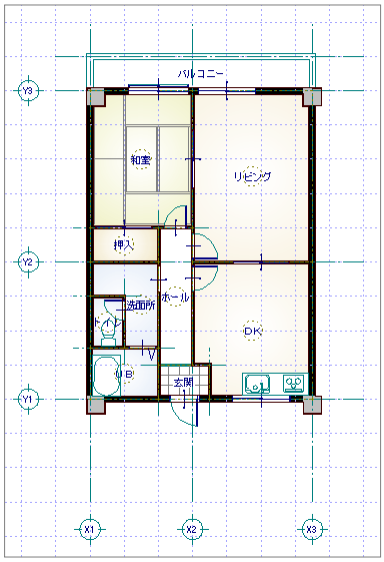
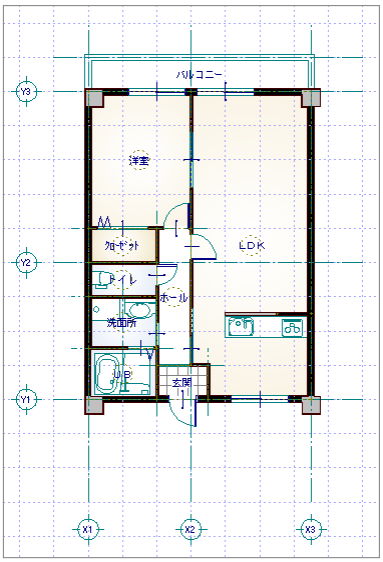
【付録】マンションリフォーム編

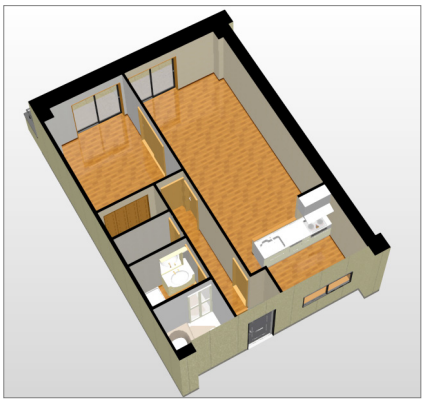
「【付録】マンションリフォーム編」では、RC マンションの一室を例に、通り芯や作図芯を使って現況図を作成し、それをもとに、リフォームプランを作成する流れを解説します。

現況図



計画図





目 次

1 新しい物件を開く ____ 3
新しい工事を作成する ____ 3
物件情報を作成する ____ 3
部屋マスタを変更する ____ 5
2 現況図の入力 ____ 6
通り芯を入力する ____ 6
作図芯を入力する ____ 7
部屋を入力する ____ 8
RC 柱を入力する ____ 9
建具を入力する ____ 10
仕上を配置する ____ 11
設備機器を入力する ____ 11
立体を確認する ____ 12
データを保存する ____ 12
3 計画図データの作成 ____ 13
計画図を開く ____ 13
不要な設備機器を削除する ____ 13
4 間取りの変更 ____ 14
部屋を入力する ____ 14
部屋を合成する ____ 14
部屋名を変更する ____ 15
部屋を入れ替える ____ 15
5 壁・仕上の編集 ____ 16
壁・腰壁を入力する ____ 16
仕上を再配置する ____ 17
6 内装の変更 ____ 18
建具を入れ替える ____ 18
建具を入力する ____ 18
不要な建具を削除する ____ 19
設備機器を入力する ____ 19
現況図と比較する ____ 20
データを保存する ____ 20

1 新しい物件を開く

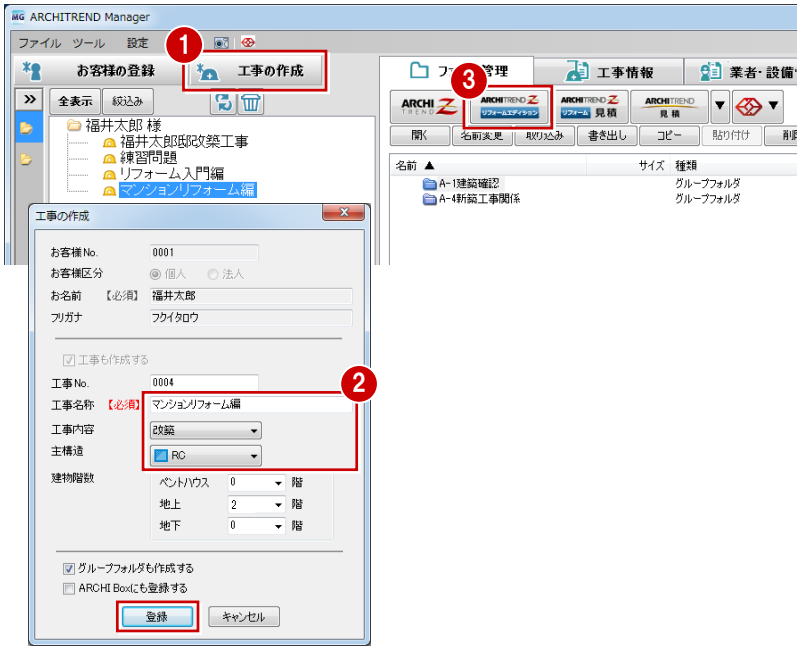
マネージャーを起動して、新しい物件を作成しましょう。

新しい工事を作成する

❶ マネージャーで［工事の作成］をクリックします。

❷ 工事名称や工事内容などを設定して、［登録］をクリックします。

❸［ARCHITREND Z リフォームエディション］をクリックします。

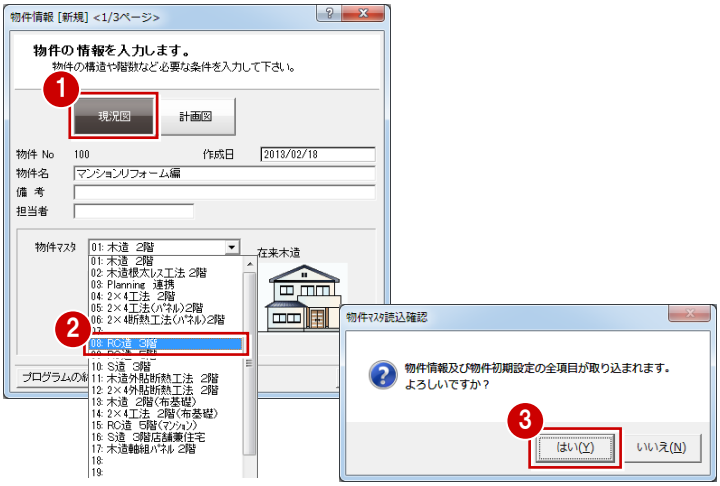


物件情報を設定する

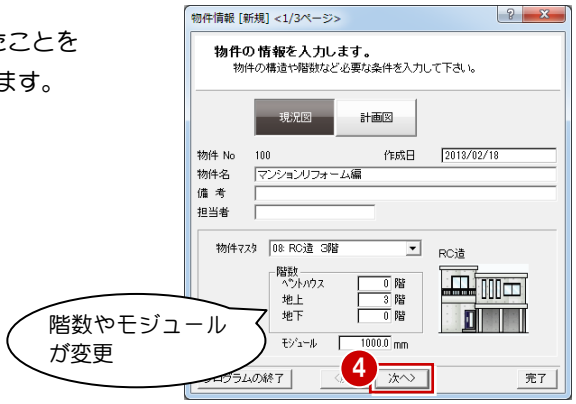
❶［物件情報］画面の<1／3ページ>で、［現況図］が ON になっていることを確認します。

❷ RC 造の建物を入力するため、物件マスタを変更します。ここでは「08：RC 造 3 階」に変更します。

❸ 確認画面が表示されるので［はい］をクリックします。



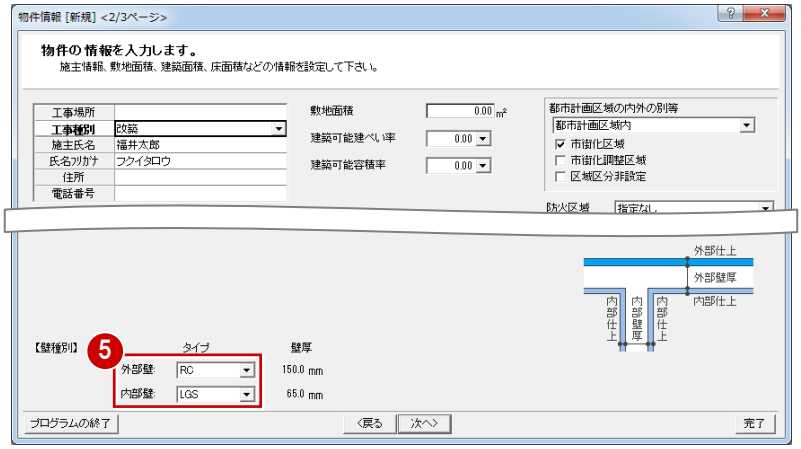
❹ 階数やモジュールが切り替わったことを確認して、［次へ］をクリックします。



入力データ

ここでは、1 階を利用してマンションの一室のリフォームデータを入力します。

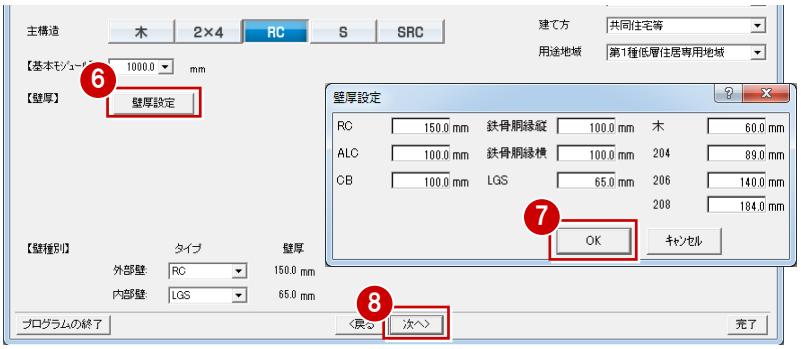
❺ 壁の種別を確認します。ここでは、［内部壁］を「LGS」に変更します。



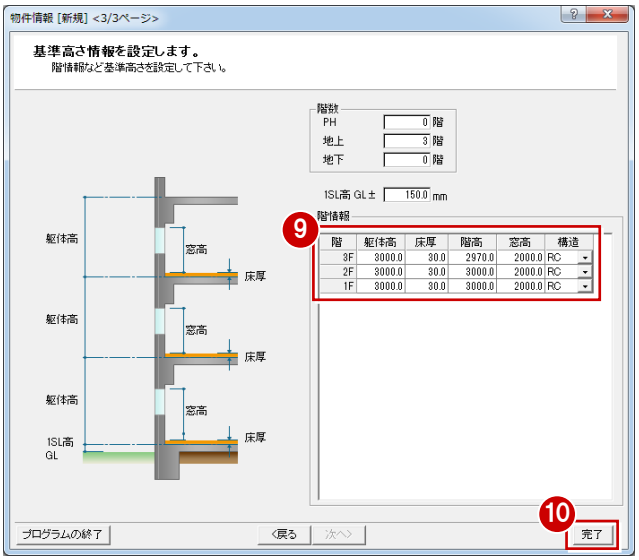
❻［壁厚設定］をクリックします。

❼ RC や LGS の壁の厚みを確認し、［OK］をクリックします。

❽［物件情報］画面の<2／3ページ>で、［次へ］をクリックします。



❾［物件情報］画面の<3／3ページ>で、床厚や階高、窓高などを確認します。

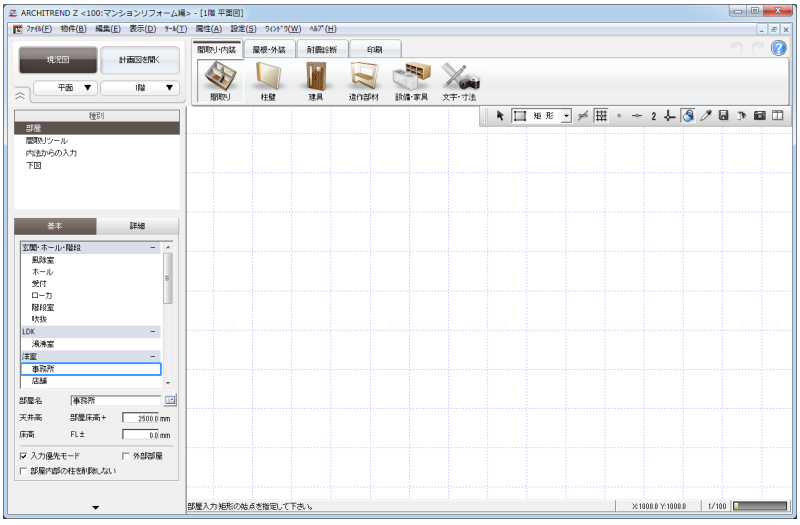


基準高さの連動先

基準高	基準高を参照する部材
GL	敷地、ポーチなどの下端高の基準
SL	柱壁の上端・下端基準
FL	部屋の床高の基準、たれ・腰壁の下端基準 内部階段の始点高・終点高の基準 建具の取付高（基準増減）の下端基準
窓高	建具の取付高（基準増減）の上端基準

※ 躯体高：下階の SL から上階の SL までの高さ
※ 階高：下階の FL から上階の FL までの高さ
※ 床厚によって、その階の FL が決まります。

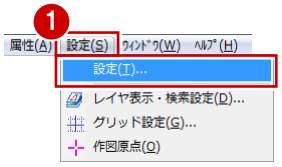
❿［完了］をクリックします。
リフォームエディションが起動します。



部屋マスタを変更する

目的にあった部屋や壁、床仕上が入力できるように、部屋マスタを変更します。

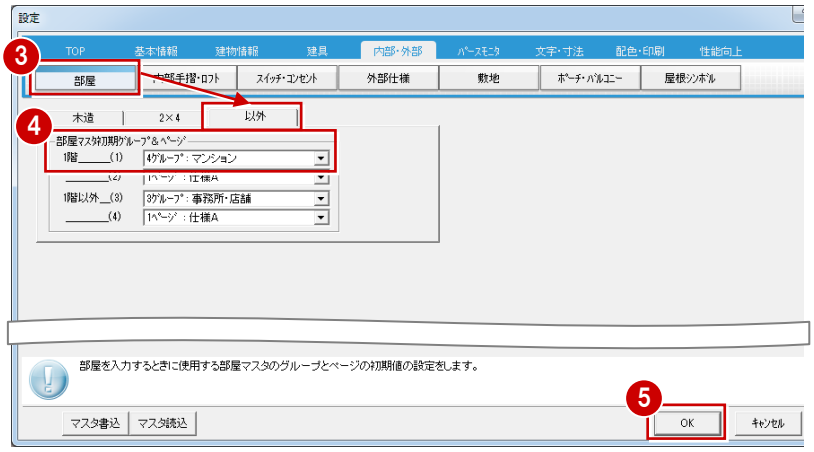
❶ プルダウンメニューから［設定］の［設定］を選びます。



❷［設定］ダイアログの【内部・外部】を選びます。

❸［部屋］タブの［以外］をクリックします。

❹ ここでは１階にマンションの一室を入力できるように［部屋マスタ初期グループ＆ページ］の［１階＿（1)］を［4 グループ：マンション］に変更します。



❺［設定］ダイアログの［OK］をクリックします。

2 現況図の入力

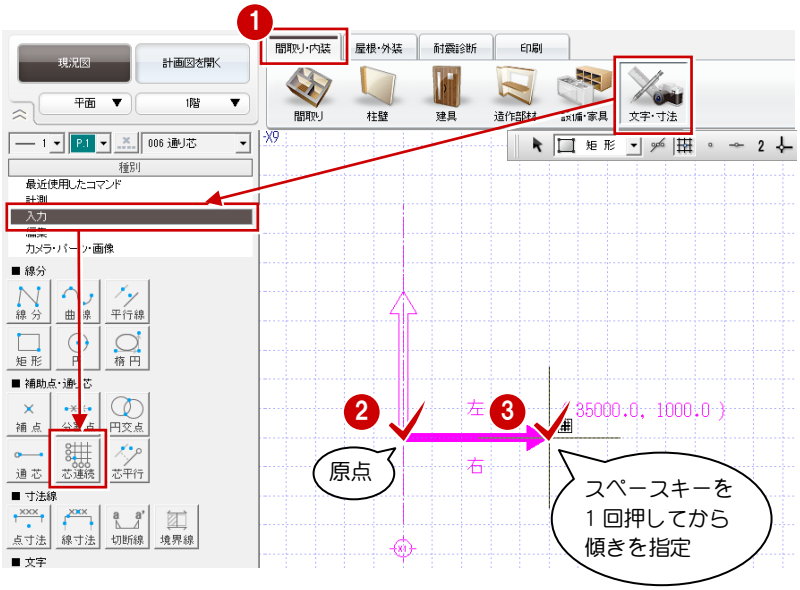
通り芯を入力する

まずは、X方向に通り芯を続けて3本入力します。

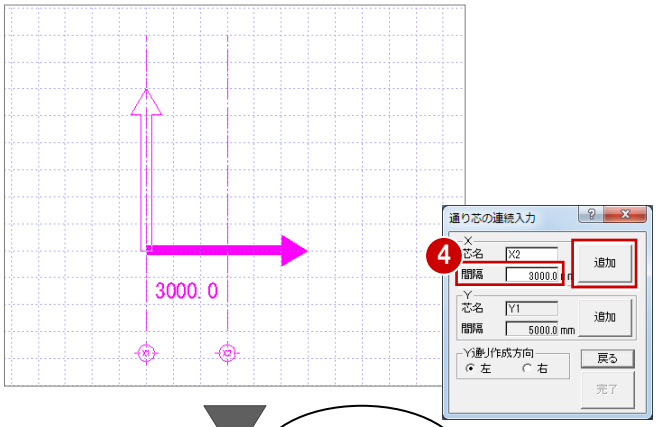
❶［間取り・内装］タブの［文字・寸法］をクリックして［入力］の［芯連続］を選びます。

❷ 通り芯の原点を指定します。

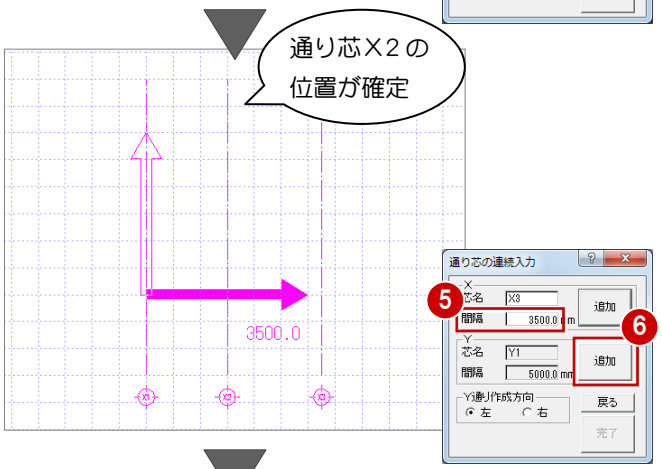
❸ スペースキーを1回押して、ドラフタ機能を有効にし、通り芯の傾きをクリックして指定します。



❹［通り芯の連続入力］ダイアログの［間隔］に「3000」と入力し［追加］をクリックします。



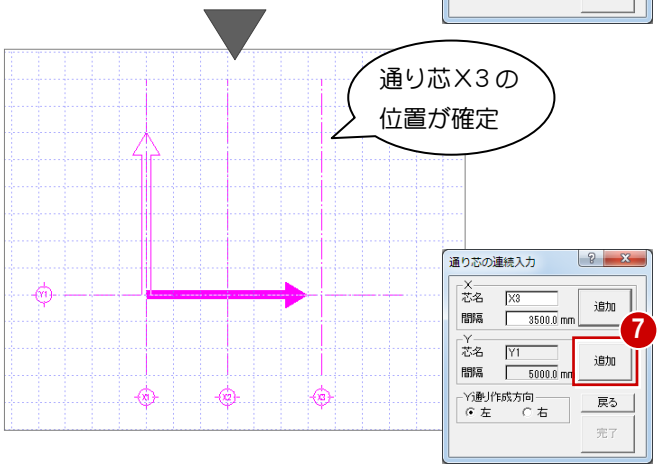
通り芯X2の位置が確定します。



❺ 続けて［間隔］に「3500」と入力します。

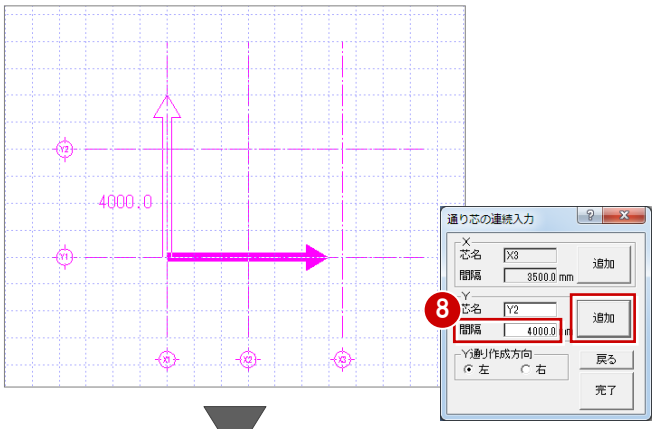
❻ 次はY方向へ通り芯を入力するので、［Y］欄の［追加］をクリックします。

通り芯X3の位置が確定し、Y方向への通り芯が入力できるようになりました。

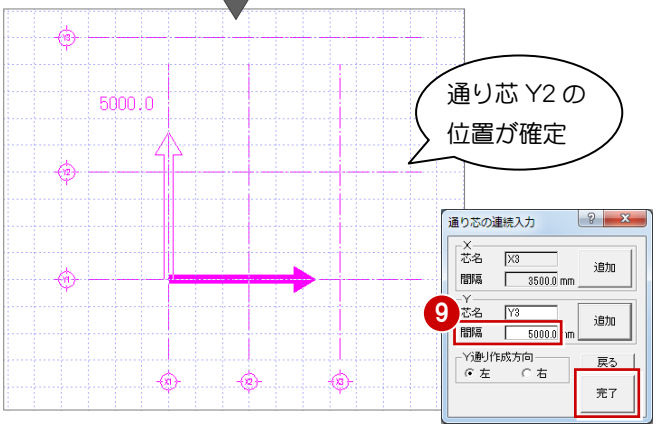


❼ そのまま［追加］をクリックして、通り芯Y1の位置を確定します。

❽［間隔］に「4000」と入力し［追加］をクリックします。

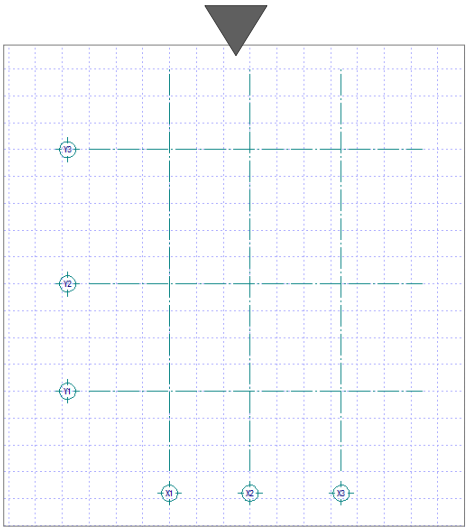


通り芯Y2の位置が確定しました。



❾［間隔］に「5000」と入力し［完了］をクリックします。

通り芯Y3の位置が確定し、すべての通り芯が入力されました。
再度スペースキーを押して、ドラフタ機能を解除しておきましょう。



作図芯を入力する

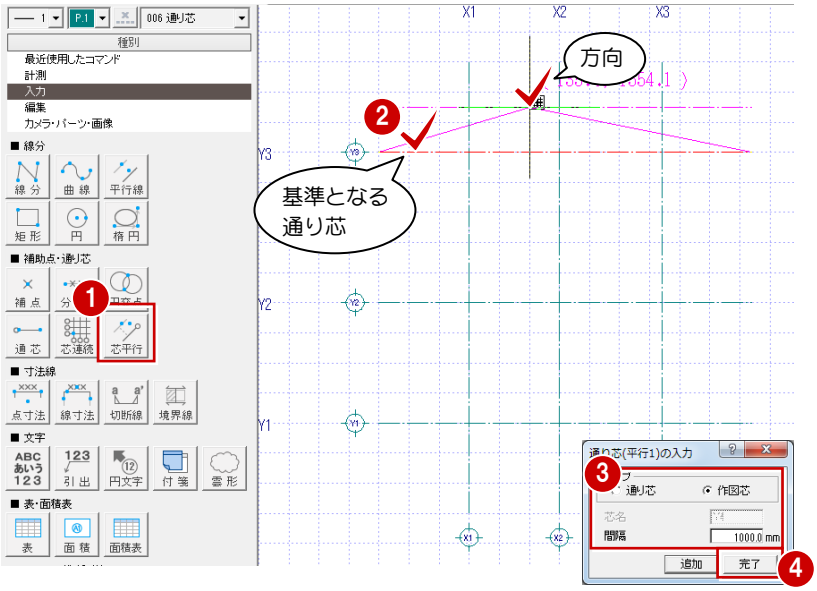
通り芯のほかに、間取りの入力位置となる作図芯を入力しましょう。まずは、通り芯と同じ長さの作図芯を入力します。

❶［入力］の［芯平行］を選びます。

❷基準となる通り芯（ここでは「通り芯Y3」）をクリックし、作図芯の入力方向をクリックします。

❸［通り芯（平行1）の入力］ダイアログで次のように設定します。
　［タイプ］：作図芯
　［間隔］：1000 mm

❹［完了］をクリックします。

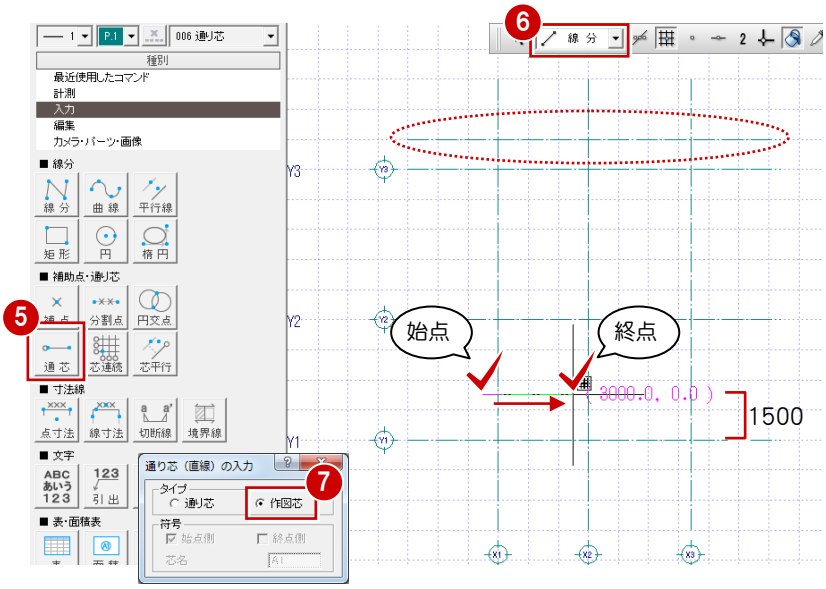


通り芯 Y3 の上に作図芯が入力されました。続けて、通り芯と長さの違う作図芯を入力します。

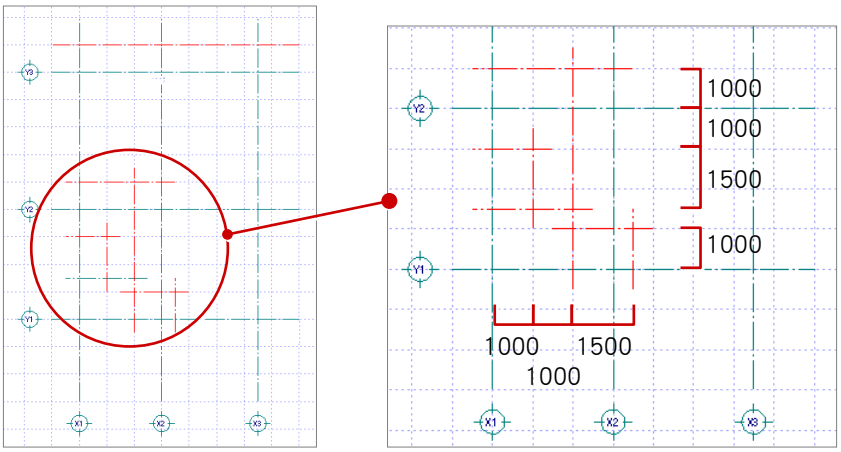
❺ ［通芯］を選びます。

❻ ［入力方法］を 線 分 に変更します。

❼ ［通り芯（直線）の入力］ダイアログで［作図芯］を ON にして、通り芯 Y1 から 1500 mm離れた右図の位置に、作図芯の始点と終点をクリックします。



❽ 同様にして、残りの作図芯も入力します。



部屋を入力する

通り芯や作図芯を利用して「スパン入力」で部屋を入力します。

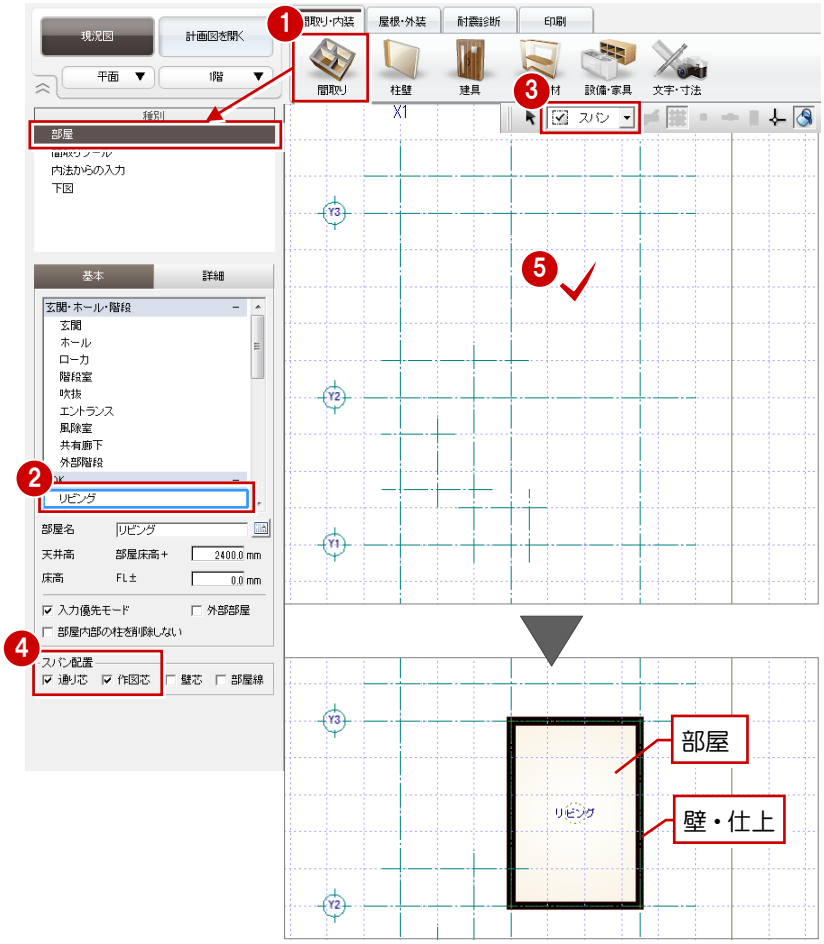
❶ ［間取り］をクリックして［部屋］が選択されていることを確認します。

❷ 入力したい部屋（ここでは「リビング」）を選びます。

❸ 操作モードを スパン に変更します。

❹ ［スパン配置］の［通り芯］と［作図芯］を ON にします。

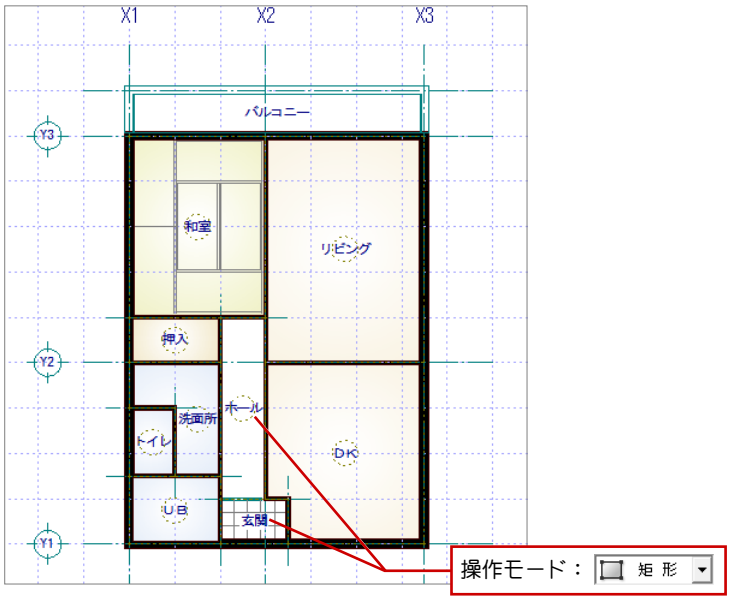
❺ 通り芯に囲まれた右図の位置をクリックします。
リビングが入力されます。



❻ 同様にして、残りの部屋も入力しましょう。
［ホール］と［玄関］については、操作モードを 矩形 に変更して入力します。

⇒ 矩形 での部屋入力については、「リフォーム入門編」P.7 参照

⇒ バルコニーの入力については、「外装リフォーム編」P.8 参照



RC 柱を入力する

通り芯を利用して、RC 柱を配置します。

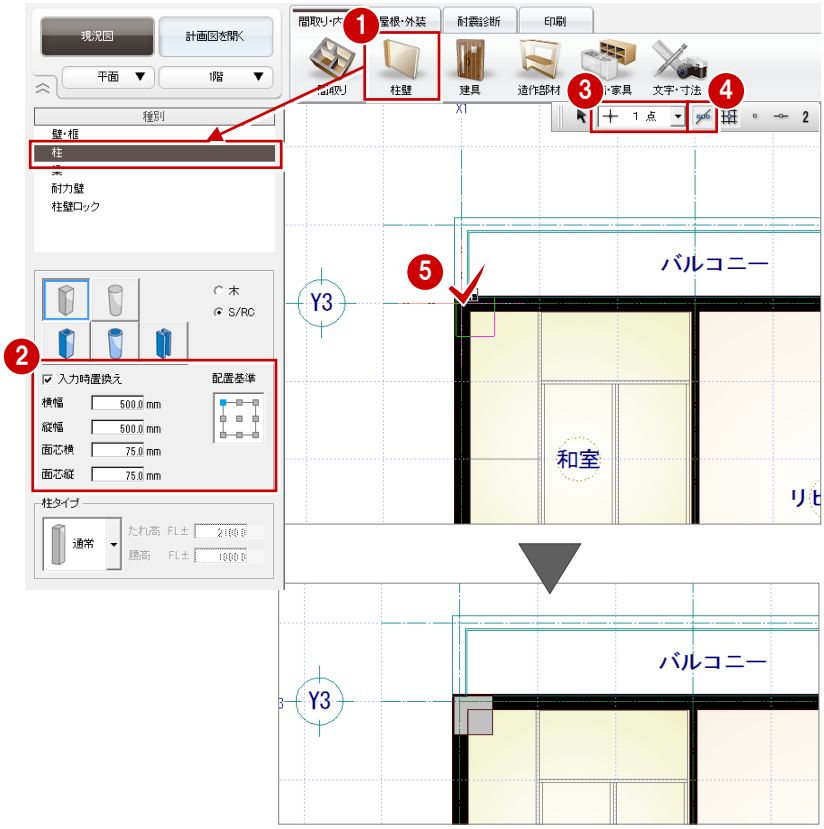
❶ ［柱壁］をクリックして［柱］を選びます。

❷ 配置条件を次のように設定します。
［配置基準］：左上
［面芯横］：75 mm
［面芯縦］：75 mm

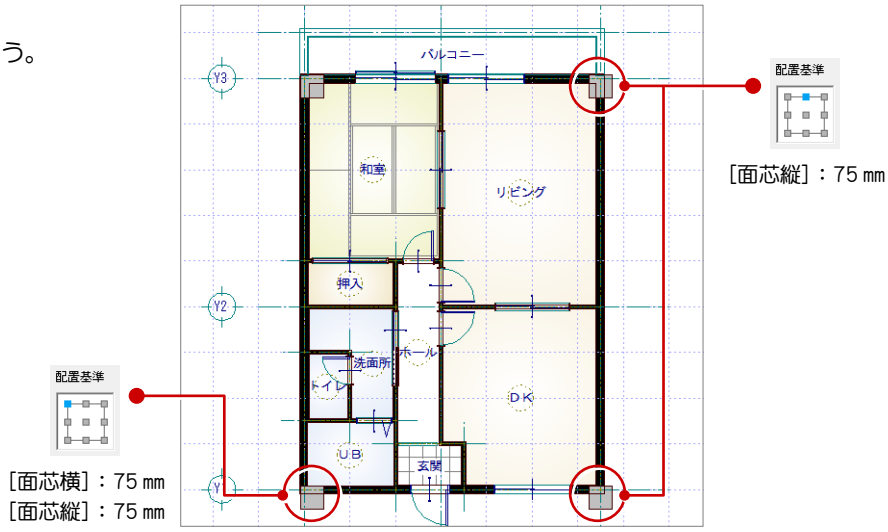
❸ 操作モードが 1 点 であることを確認します。

❹ 通り芯の交点がピックできるように、フローティングバーの を ON にします。

❺ 通り芯 X1 と Y3 の交点をクリックします。



❻ 同様にして、残りの柱も入力しましょう。

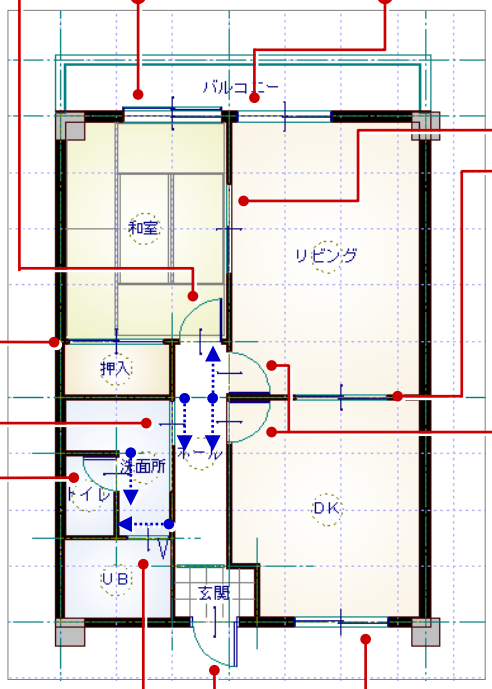


建具を入力する

［建具］をクリックして、建具を入力します。

⇒ 建具入力については、「リフォーム入門編」P.28 参照

※ ●┈┈▶ は、入力タイプが「始点寄せ」の場合の入点です。



2 枚引違戸（アルミ）
「w1720h2000」

入力タイプ：中央
取付高：部屋床高参照

2 枚引違戸（アルミ）
「w1650h2000」

入力タイプ：中央
取付高：部屋床高参照

片開ドア（ふすま）
「w805h2000」

入力タイプ：中央
取付高：部屋床高参照

2 枚引違戸（ふすま）
「ふすま／木製 2000」

入力タイプ：中央
取付高：部屋床高参照

2 枚引違戸（ふすま）
「w1715h2000」

入力タイプ：中央
取付高：部屋床高参照

2 枚引違戸（木製）
「2 枚引違 A タイプ」

入力タイプ：中央
取付高：部屋床高参照

片引戸（木製）
「片引戸 A タイプ」

入力タイプ：始点寄せ
取付高：部屋床高参照

片開ドア（木製）
「単体ドア A タイプ」

入力タイプ：始点寄せ
取付高：部屋床高参照

2 枚引違窓（アルミ）
「w1650h700」

入力タイプ：中央
取付高：窓高－350

片開ドア（木製）
「単体ドアトイレ用 A タイプ」

入力タイプ：始点寄せ
取付高：部屋床高参照

折戸（アルミ）
「w740h2000」

入力タイプ：始点寄せ
取付高：部屋床高参照

片開ドア（アルミ）
「アパート用玄関ドア」

入力タイプ：中央
取付高：部屋床高参照

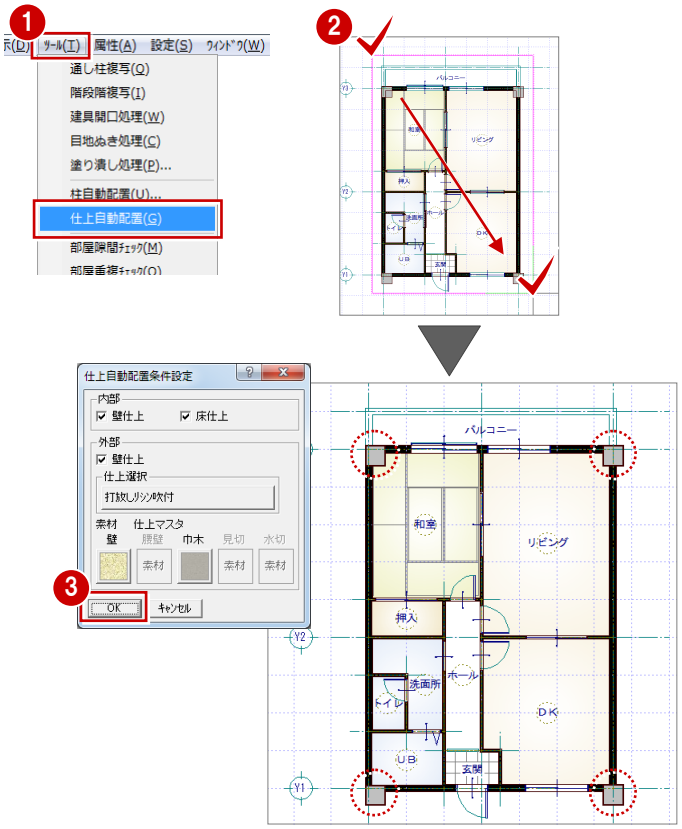
仕上を配置する

RC 柱に仕上をまわしましょう。

❶ プルダウンメニューから［ツール］の［仕上自動配置］を選びます。

❷ 間取り全体が含まれるように範囲を指定します。

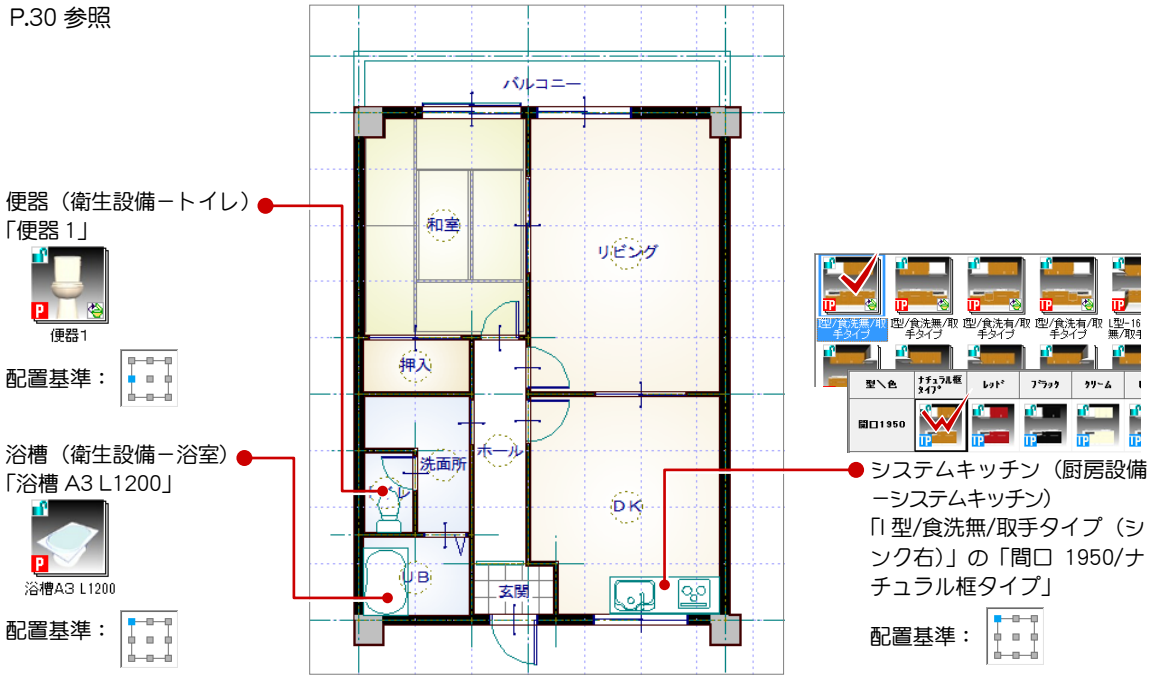
❸ ［OK］をクリックします。
RC 柱まわりに仕上が配置されます。



設備機器を入力する

［設備・家具］をクリックして、住設機器を入力します。

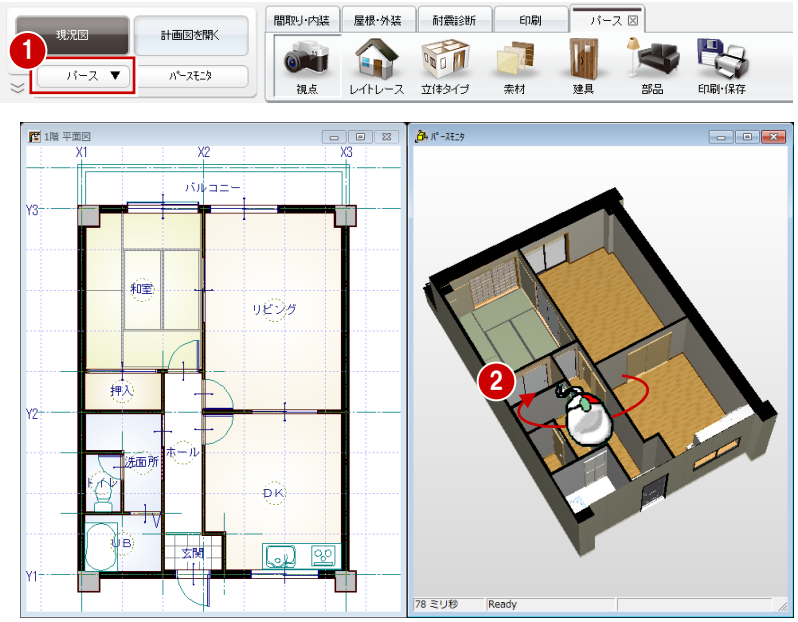
⇒ 設備機器の入力については、「リフォーム入門編」P.30 参照



立体を確認する

❶［図面の切り替え］から「パース」を選んでパースモニタを開きます。

❷ カメラや視点を変更して、各部屋を確認しましょう。

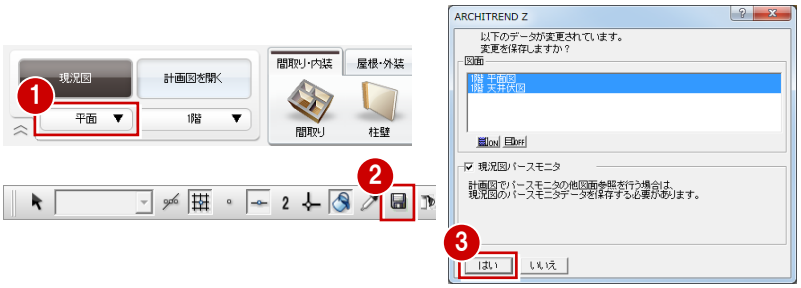


データを保存する

❶［図面の切り替え］から「平面」を選んで図面に戻ります。

❷ フローティングバーの をクリックします。

❸ 確認画面で［はい］をクリックします。



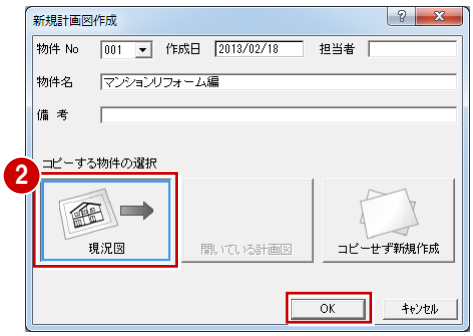
3 計画図データの作成

現況図ができたら、それをもとにリフォームの計画図を作成しましょう。現況図の図面を並べて表示しながら、計画図を作成していくこともできます。

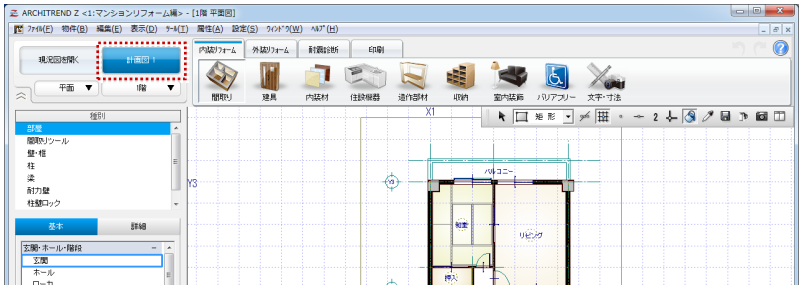
計画図を開く

❶［計画図を開く］をクリックします。

❷［コピーする物件の選択］が［現況図］になっていることを確認して、［OK］をクリックします。



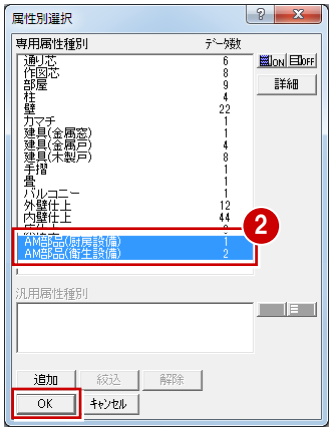
現況図がコピーされた状態で、計画図 1 が開きます。



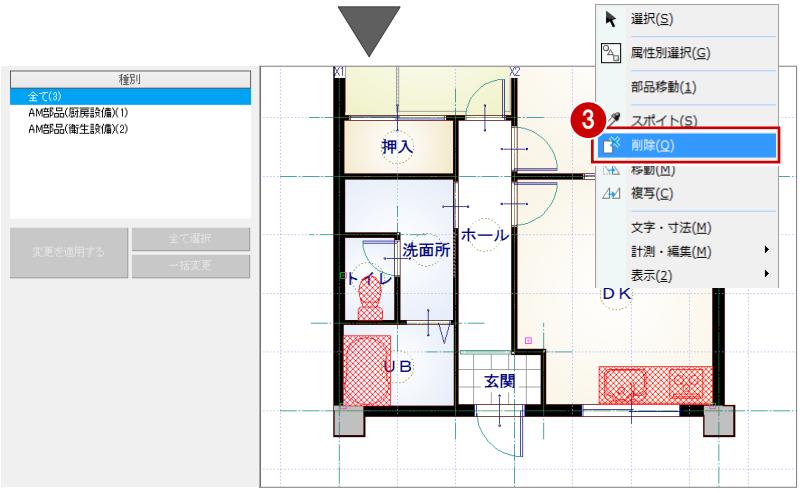
不要な設備機器を削除する

❶ ポップアップメニューから［属性別選択］を選びます。

❷「AM 部品（厨房設備）」「AM 部品（衛生設備）」を選んで、［OK］をクリックします。



❸ ポップアップメニューから［削除］を選びます（または Delete キーを押します）。



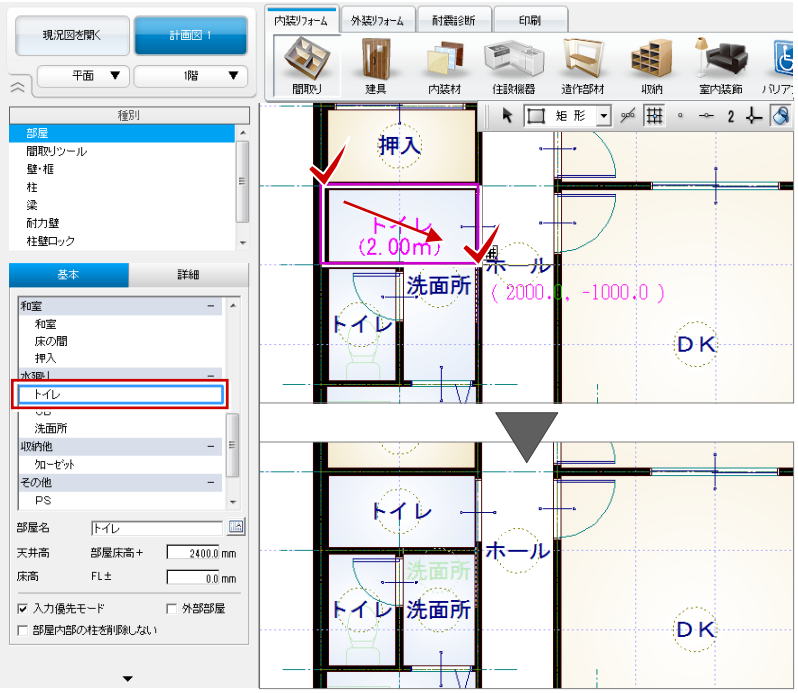
4 間取りの変更

新しく部屋を入力したり、既存の部屋を合成したりして間取りを変更しましょう。

部屋を入力する

右図のように「トイレ」を入力します。

⇒ 部屋入力については、「リフォーム入門編」P.7 参照



部屋を合成する

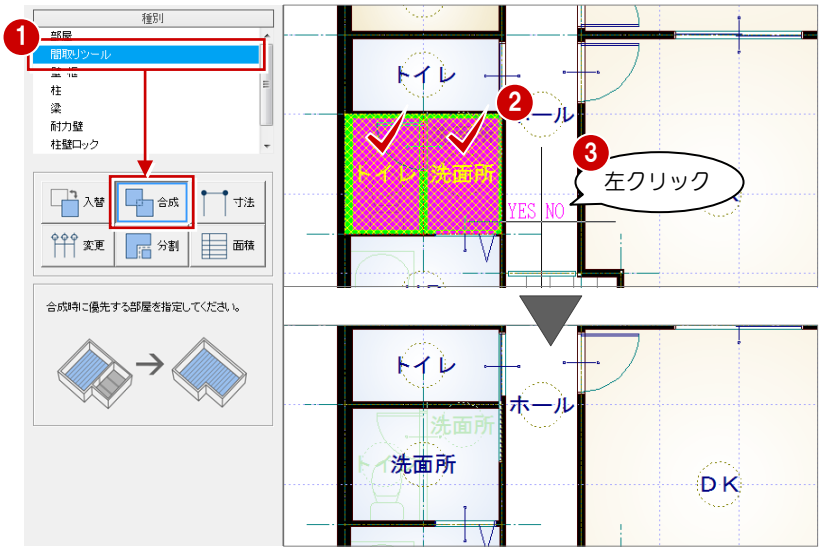
❶ ［間取りツール］の［合成］をクリックします。

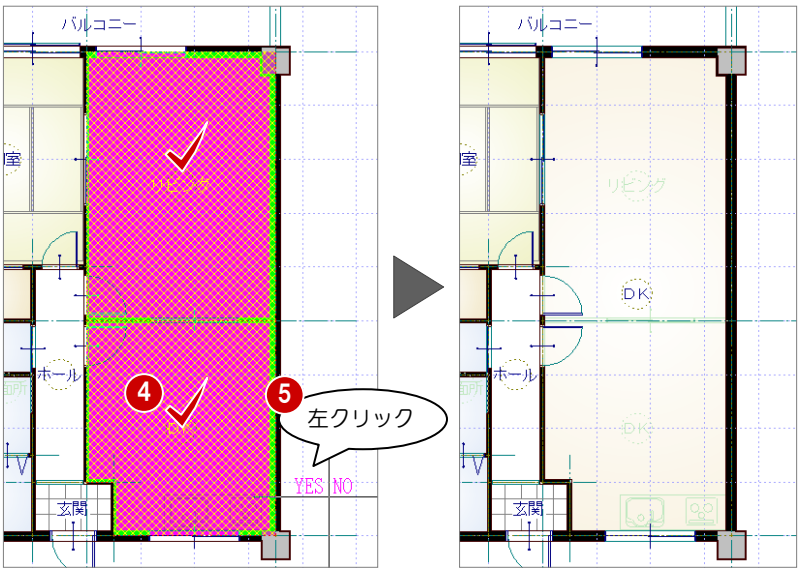
❷ 合成したい部屋（ここでは「洗面所」と現況図で入力した「トイレ」）をクリックします。
このとき、部屋名などのプロパティを残す方の部屋を先に指定します。

❸ カーソルに［YES／NO］が表示されたら左クリックします。
部屋が合成されます。

※ 左クリックで合成、右クリックでキャンセルになります。

❹❺ 同様にして、「DK」と「リビング」も合成します。





部屋名を変更する

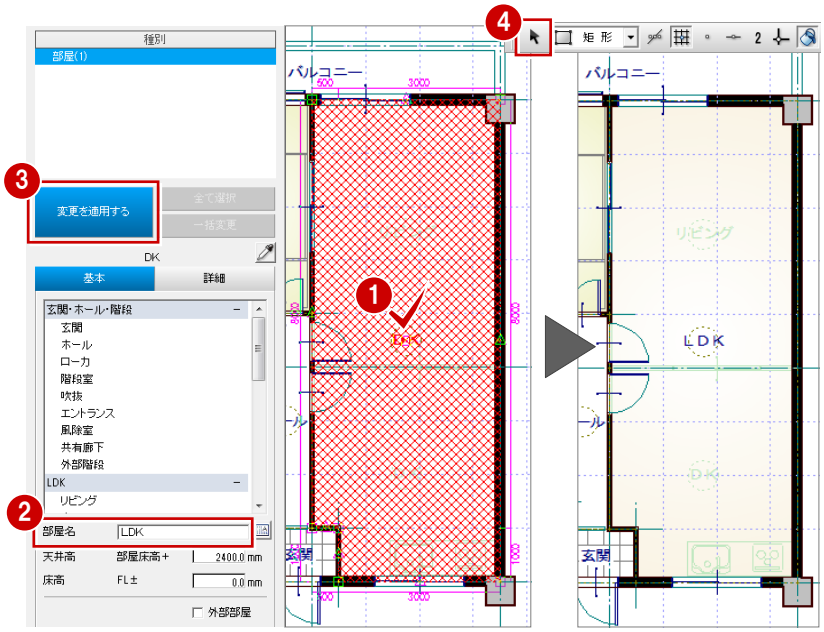
合成した部屋の名称を変更しましょう。

❶ ［DK］をクリックします。

❷ プロパティの［部屋名］を変更します。ここでは「LDK」に変更します。

❸ ［変更を適用する］をクリックします。

❹ フローティングバーの をクリックして選択状態を解除します。

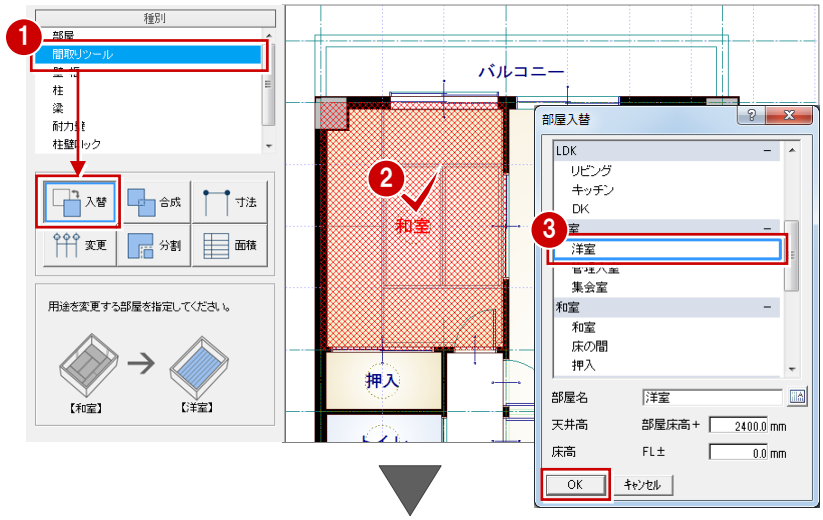


部屋を入れ替える

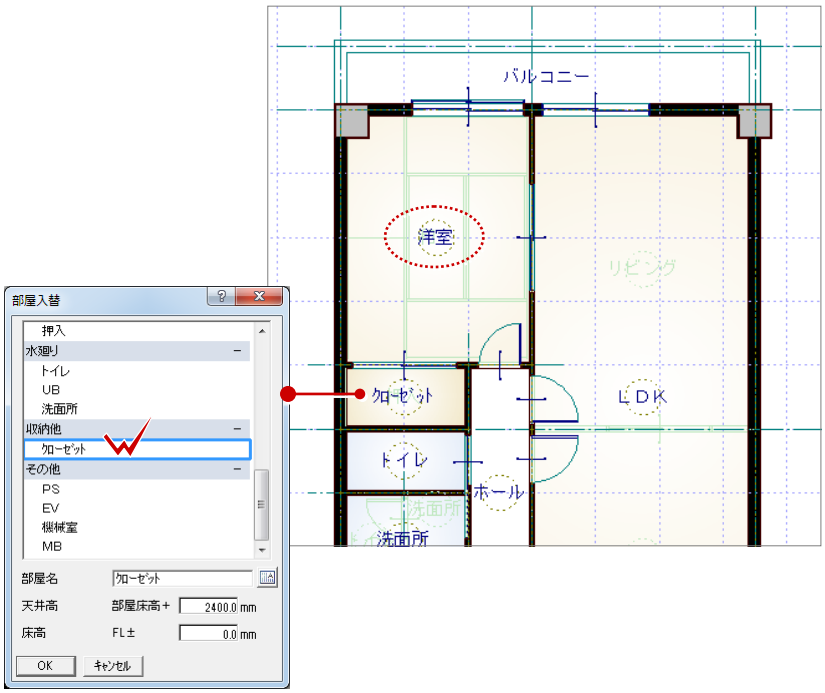
❶ ［間取りツール］の［入替］をクリックします。

❷ 入れ替えたい部屋（ここでは「和室」）をクリックします。

❸ 入力したい部屋（ここでは「洋室」）を選んで、［OK］をクリックします。ダブルクリックでも設定できます。



❹ 同様にして、「押入」を「クローゼット」に入れ替えます。



部屋の入れ替え

［入替］では、部屋の入れ替えと同時に、床・壁・天井の仕上仕様も変更されます。

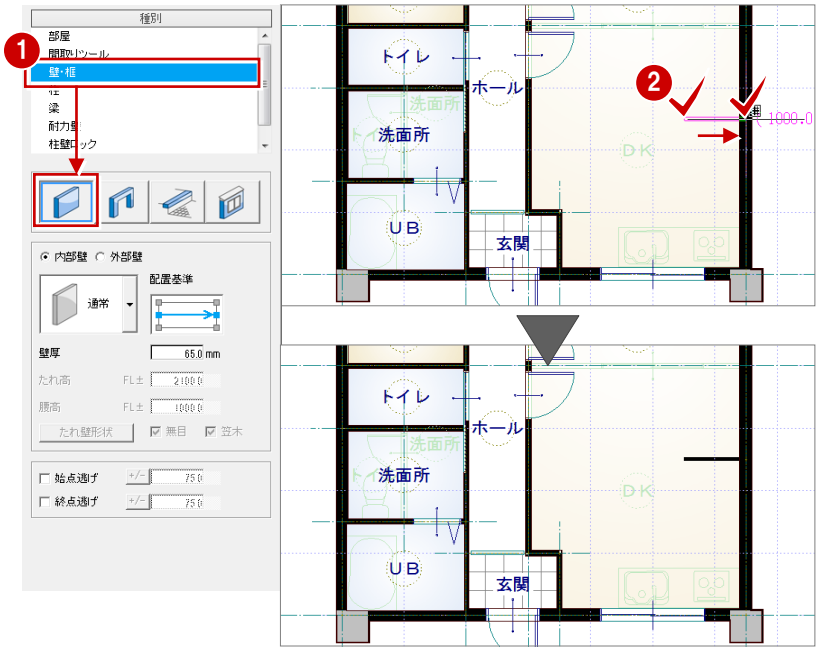
5 壁・仕上の編集

壁・腰壁を入力する

LDK の対面キッチン部分に壁と腰壁を入力しましょう。

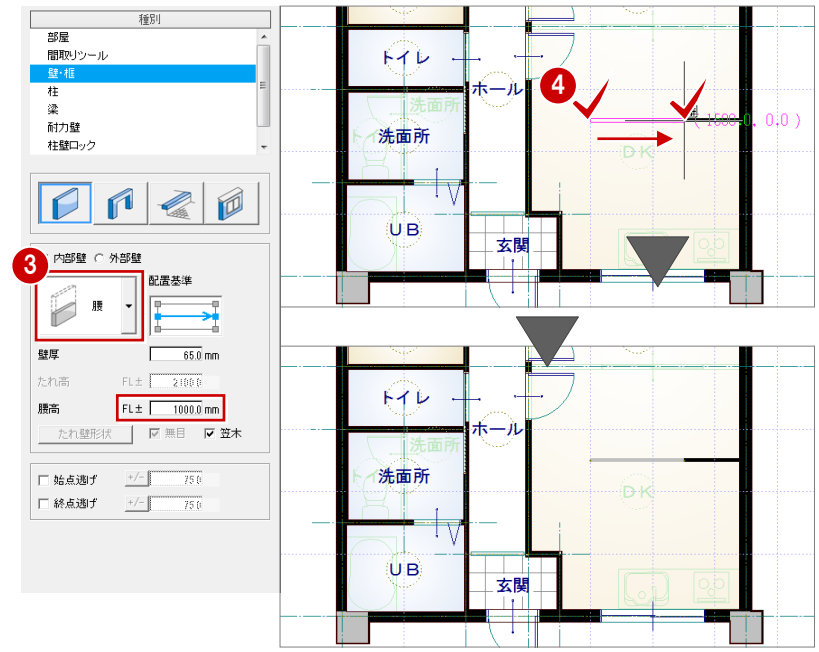
❶ ［壁・框］の［壁］を選びます。

❷ 右図の位置に、壁の始点、終点をクリックします。



❸ 壁タイプを「腰」に変更します。
（ここでは、腰高は「1000」のまま）

❹ 右図の位置に、腰壁の始点、終点をクリックします。



仕上を再配置する

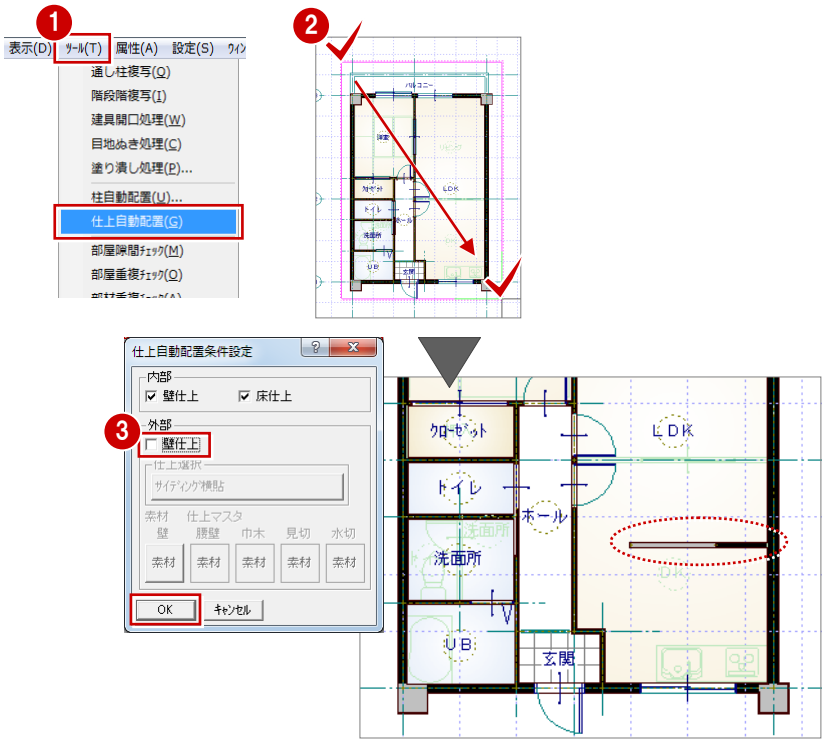
壁を入力した部分に、仕上をまわしましょう。

－ 内壁仕上を再配置する －

❶ プルダウンメニューから［ツール］の［仕上自動配置］を選びます。

❷ 間取り全体が含まれるように範囲を指定します。

❸ ［外部］の［壁仕上］を OFF にして、［OK］をクリックします。
仕上が配置されます。

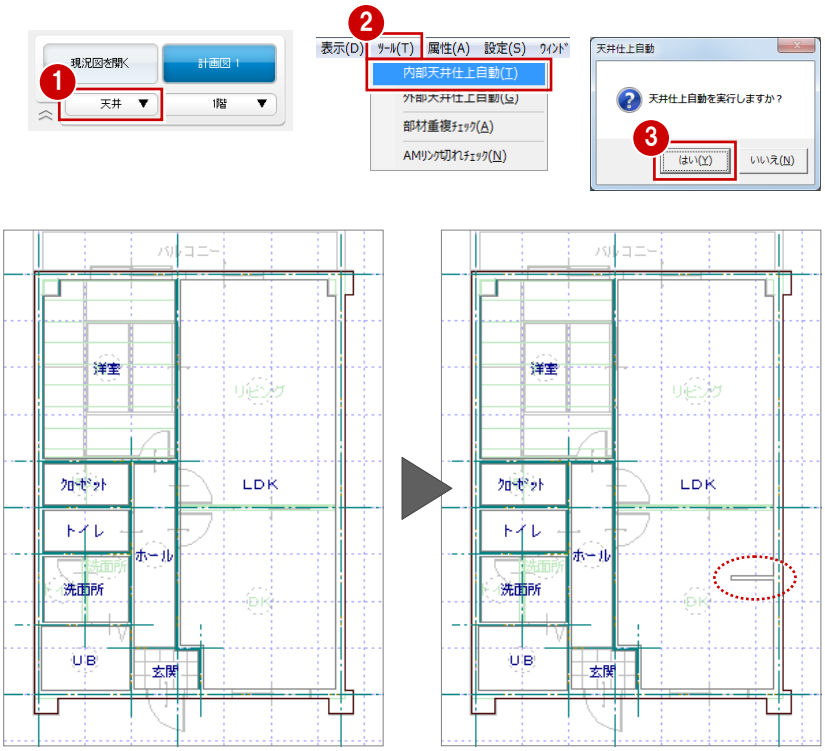


－ 天井仕上を再配置する －

❶ ［図面の切り替え］から「天井」を選びます。

❷ プルダウンメニューから［ツール］の［内部天井仕上自動］を選びます。

❸ 確認画面で［はい］をクリックします。



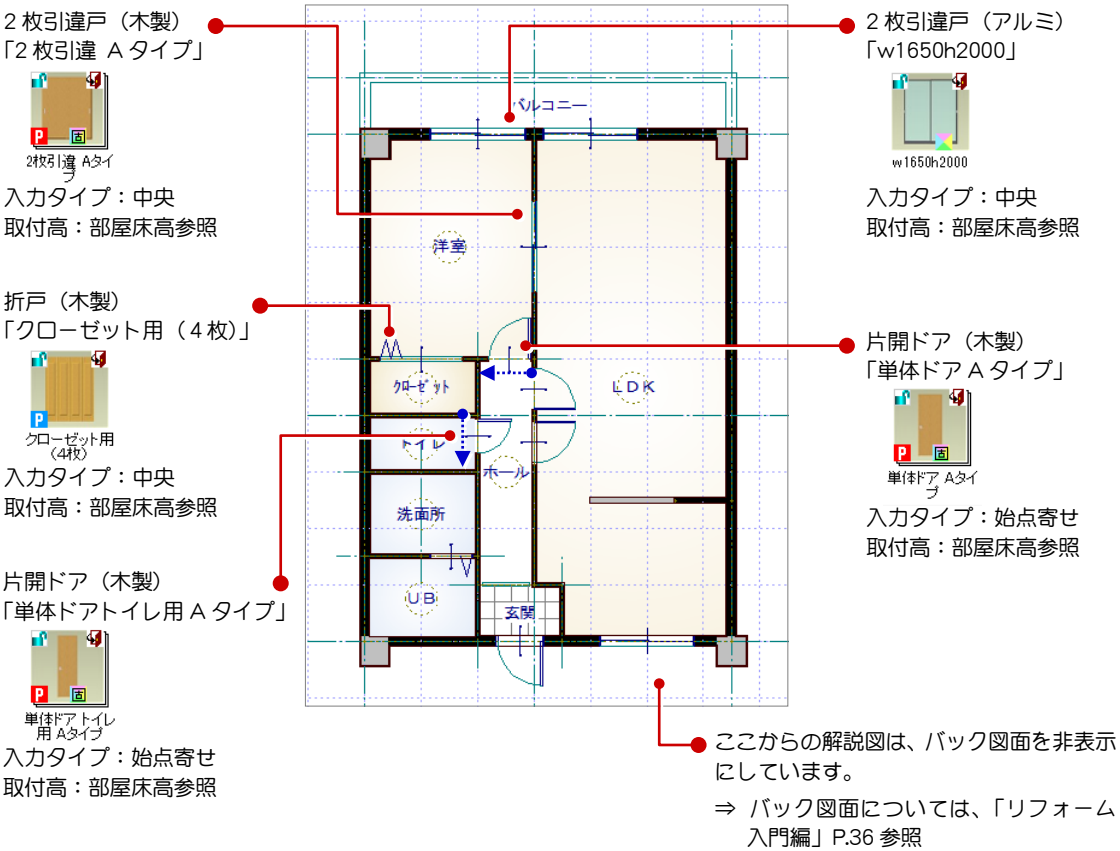
6 内装の変更

建具を入れ替える

[建具]をクリックして、建具を入れ替えます。

⇒ 建具の入れ替えについては、「外装リフォーム編」P.17 参照

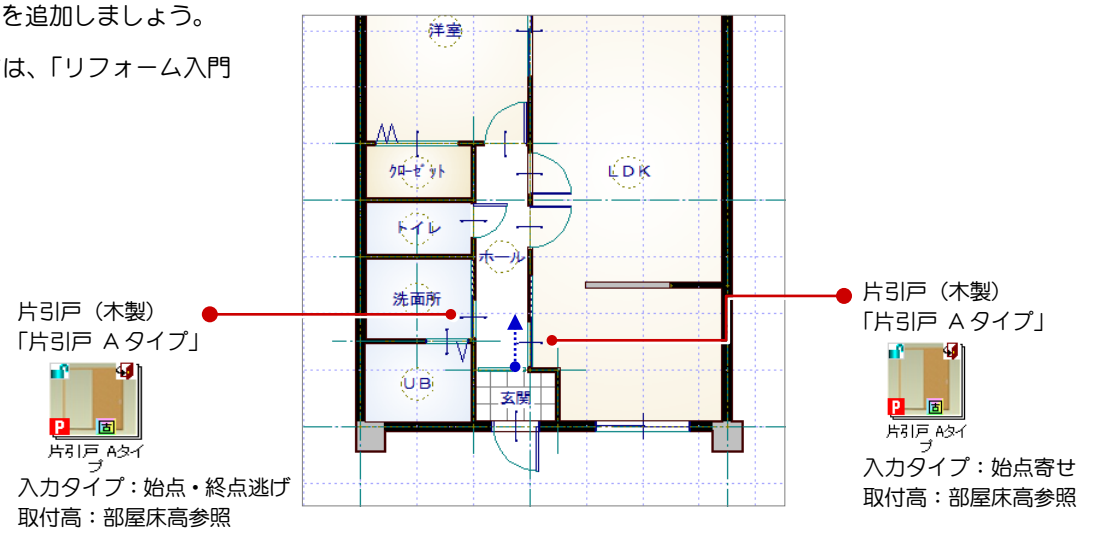
※ ●┈┈▶ は、入力タイプが「始点寄せ」の場合の入点です。



建具を入力する

洗面所と LDK に建具を追加しましょう。

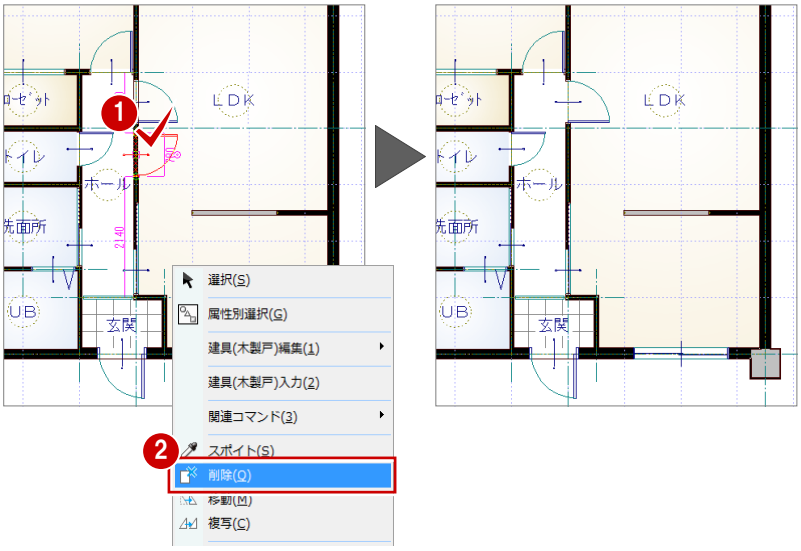
⇒ 建具入力については、「リフォーム入門編」P.28 参照



不要な建具を削除する

❶ 削除する建具を選択します。ここでは LDK の片開ドアをクリックします。

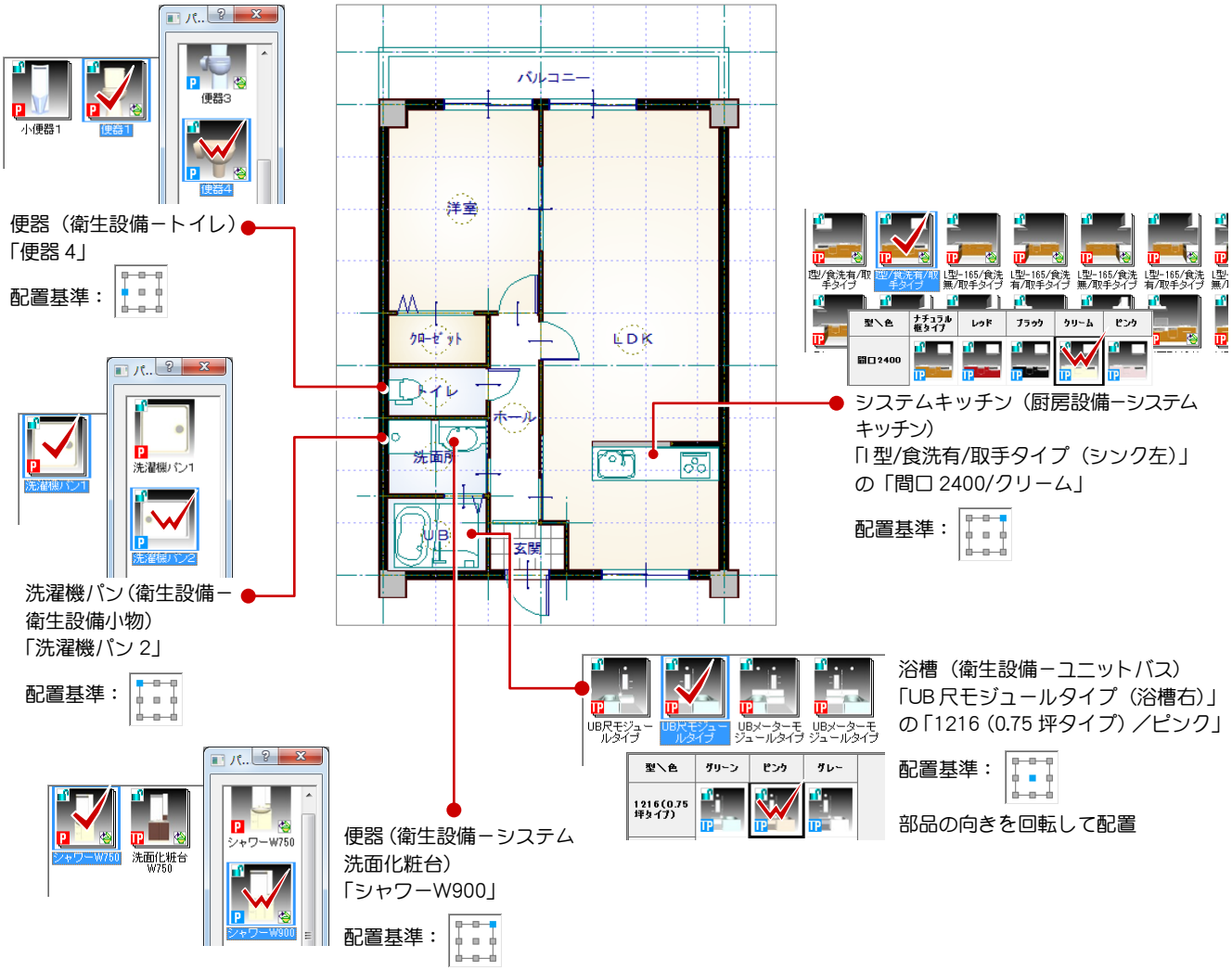
❷ ポップアップメニューから［削除］を選びます（または Delete キーを押します）。



設備機器を入力する

［住設機器］をクリックして、設備機器を入力します。

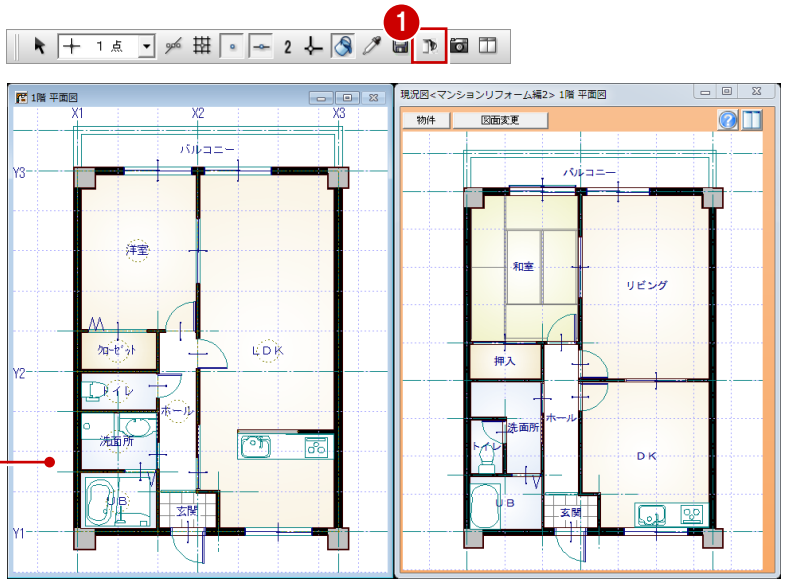
⇒ 設備機器の入力については、「リフォーム入門編」P.30 参照



現況図と比較する

変更前と変更後のプランを確認しましょう。
まずは平面を確認します。

❶ フローティングバーの をクリックします。
現況図が並べて表示されます。変更前と変更後のプランを確認しましょう。



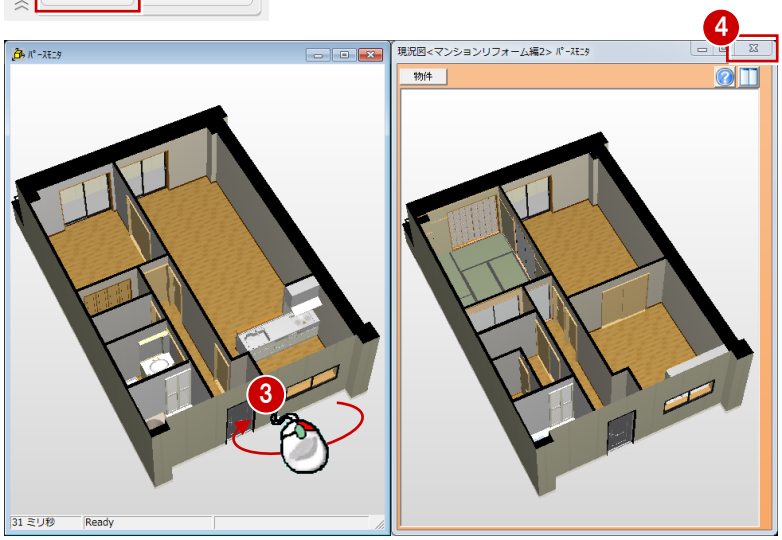
現況図・計画図のどちらで拡大表示しても、他方が同様に表示されます。

次は立体を確認しましょう。

❷ ［図面の切り替え］から「パース」を選んでパースモニタを開きます。

❸ カメラや視点を変更して、各部屋を確認しましょう。

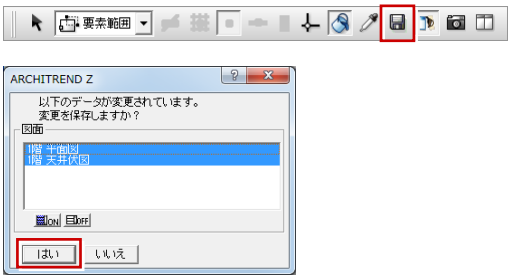
❹ 確認が終了したら、［現況図］ウィンドウを閉じます。



データを保存する

必要に応じて図面化処理を実行し、データを保存しましょう。

⇒ 図面化処理については、「リフォーム入門編」P.39 参照



以降の操作について

その他の内装リフォームについては、「リフォーム入門編」「水廻りのリフォーム編」を参照してください。
また、以降のパースの作成、展開図の作成、図面の作成についても同マニュアルを参照してください。